

川村湊・島田龍編集による 戦前・戦後の左川ちか論のまとめである。

川村湊・島田龍 編『左川ちか論集成』

伊藤整との運命の出会い、運命の転回

左川ちかは北海道が生んだ不世出の翻訳家であり、詩人であった。

1936年（昭和11年）24歳の若さで夭折した。

ジェイムズ・ジョイス『室楽』の本邦初翻訳は、わが国散文詩の黎明を告げる金声玉振となった。



登場人物

第一部

左川ちか・小松瑛子・富岡多恵子・江間章子・新井豊美・水田宗子・坂東里美・エリス俊子

第二部

伊藤整・乾直恵・内田忠・浦和淳・柏木俊三・加藤一・川崎昇・川村欽吾・菊池美和子・北園克衛・衣巻省三・曾根博義・高祖保・高松章・竹中郁・田中克己・千葉宣一・鶴岡善久・中村千尾・中山省三郎・西脇順三郎・萩原朔太郎・濱名與志春・春山行夫・堀口大學・村野四郎・百田宗治・山中富美子・山村酉之助・阪本越郎

編者略歴

川村 湊（かわむら みなと）1951年～

北海道出身。法政大学名誉教授。文芸批評、近現代文学研究。著作に『川村湊自撰集』（全5巻、作品社、2015～16）、編著に『黒い水／穀雨 河林満作品集』（インパクト出版会、2022）、『サハラの水 正田昭作品集』（インパクト出版会、2023）、共編に『中島敦全集』（筑摩書房、1991）、『コレクション 戦争×文学』（集英社、2011～12）など。

島田 龍（しまだりゅう）1976年～

東京都出身。立命館大学人文科学研究所研究員・同文学部授業担当講師。専門は日本文化史。著作に『左川ちか全集』（編著、書肆侃侃房、2022）、『昭和の文学を読む』（共著、ひつじ書房、2022）、『左川ちか』（川村湊共編、河出書房新社、2023）、「声の在り処—伊藤整と三人の女たち」（『文学界』76-12、2022年11月）など。

本の全体構成

まえがき

I 評伝・評論

II 同時代評・追悼・回想

III 研究史・年譜

左川ちか一〇〇年の物語—解説に代えて—

左川ちか略年譜

著者紹介

あとがき

貴店番線	発行：藤田印刷エクセレントブックス TEL0154-22-4165 FAX0154-22-2546	
月	川村湊・島田龍 編	2023年11月10日 第1刷発行 発行所 藤田印刷エクセレントブックス 判型 A5判(380頁)・上製本 印刷 藤田印刷株式会社
日	左川ちか論集成	
冊	定価3300円(税込) ISBN 978-4-86538-159-7 C0095 ¥3000E	

ご注文はJRCへ FAX03-3294-2177まで